



## **WebEx 生産性向上ツールの大規模展開 IT 管理者ガイド (WBS30、WBS31)**

初版：2016年02月26日

最終更新：2016年04月15日

### **シスコシステムズ合同会社**

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

**【注意】** シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <http://www.cisco.com/go/trademarks>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

© 2016 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 目次

### 紹介 1

#### 概要 1

WebEx 生産性向上ツールの機能リスト 1

WebEx 生産性向上ツールのパッケージ 2

通常のインストール 3

### 管理者によるサイレントインストール 5

管理者によるサイレントインストールの概要 5

サイレントインストールのコマンドラインを使用する 5

生産性向上ツールフラグの表 6

サイレントアンインストールのコマンドラインを使用する 7

### SMS を使ったサイレントインストール 9

SMS を使ったサイレントインストールの概要 9

サイレントインストールとアンインストールの制限 9

無人システムごとの SMS を使用して WebEx 生産性向上ツールを告知する 10

無人システムごとの SMS を使って生産性向上ツールコンポーネントを削除する 21

無人システムごとの SMS を使って生産性向上ツールコンポーネントを追加する 22

無人システムごとの SMS を使って生産性向上ツールコンポーネントをアンインストールする 25

Program に新しいバージョンの WebEx 生産性向上ツールの更新を通知する 26

定義からパッケージを作成する 27

### 管理ツールを使用して WebEx の Notes スクリプトをインストールする 33

WebEx と Lotus Notes の連携管理ツールをインストールする 33

新しいメールテンプレートを作成する 34

新しく作成された WebEx メールテンプレートを単一または複数のユーザーに割り当てる 36

単一のユーザーに新しい WebEx テンプレートを割り当てる 37

WebEx と Lotus Notes の連携テンプレートを複数ユーザーに割り当てる 38

**Lotus Notes 連携ツールとテンプレート 41**

WebEx と Lotus Notes の連携管理ツール (nwinstal コマンド使用) 41

WebEx と Lotus Notes の連携のメールテンプレートファイルを削除する 43

**既知の問題 45**

既知の問題 45

**レジストリとインストールされたファイル 47**

レジストリとインストールファイル 47



# 第 1 章

## 紹介

---

- [概要, 1 ページ](#)
- [WebEx 生産性向上ツールの機能リスト, 1 ページ](#)
- [WebEx 生産性向上ツールのパッケージ, 2 ページ](#)
- [通常のインストール, 3 ページ](#)

## 概要

これはあなたが WebEx 生産性向上ツールのインストールに必要なタスクについて理解するためのドキュメントです。単一のコンピュータのインストールおよび Microsoft Systems Management Server (SMS) を使用した大規模のインストールを含む様々なタイプのインストールについて記載されているガイドです。

## WebEx 生産性向上ツールの機能リスト

- WebEx と Outlook の連携
- WebEx と Lotus Notes の連携
- WebEx 生産性向上ツールパネル
  - Microsoft Windows の右クリックメニュー
  - Microsoft Office の WebEx ツールバー
  - Microsoft Excel
  - Microsoft PowerPoint
  - Microsoft Word
  - WebEx と Internet Explorer との連携
  - WebEx と Firefox の連携 (バージョン 42 以前)

- WebEx とインスタントメッセージの連携
  - Microsoft Office Communicator
  - Lotus SameTime
  - Skype

## WebEx 生産性向上ツールのパッケージ

### Microsoft Outlook ユーザー

ptools.msi: このパッケージには WebEx 生産性向上ツールのすべてのコンポーネントが含まれています。

### IBM Lotus Notes ユーザー

IT 部署による大規模展開:

Lotus Notes 用の WebEx 生産性向上ツールには 2 つのパートから成り立っています。ユーザーのメールデータベースの Domino サーバー上の WebEx スクリプト、そしてユーザー PC 上の Notes フォルダ内にある WebEx バイナリファイルです。

- ptdomtl.msi: このインストールパッケージには Lotus Notes 連携用の WebEx 管理ツールが含まれます。これによりメールテンプレートに WebEx スクリプトが挿入されます。このインストーラは Domino 管理者により使用されます。詳細については次を参照してください。[WebEx と Lotus Notes の連携管理ツールをインストールする](#), (33 ページ)
- ptoolsniclient.msi: このインストールパッケージには WebEx 生産性向上ツールのすべてのコンポーネントが含まれます。
- ptoolsni.msi: このインストールパッケージには WebEx 生産性向上ツールのすべてのコンポーネントが含まれており、ユーザーが Notes の Manager または Designer 権限を持っている場合に WebEx スクリプトを挿入することができます。このインストールパッケージが使用できない障害はユーザーのメールテンプレートの一部がロックされ、Domino 管理者によってリフレッシュできないことが原因です。

### 各々のインストール

WebEx サイト管理者はどのパッケージを使用するかを決定します。WebEx サイト管理オプションで [Do not allow user to update the mail template on Domino server] オプションが選択されると、WebEx ダウンロードで **ptoolsniclient.msi** が使用されます。このオプションが選択されていない場合、WebEx ダウンロードページは **ptoolsni.msi** が使用されます。次の表では、サイト管理オプションの生産性向上ツールページで利用できるこのオプションを表示しています:

### Integrations

Select the programs with which you want to install WebEx Productivity Tools:

- Microsoft Outlook
- IBM Lotus Notes
  - Do not allow user to update mail template on Domino server 

## 通常のインストール

各ドメインユーザーは MSI パッケージを起動することで、直接、各々のデスクトップに WebEx 生産性向上ツールをインストールすることができます。生産性向上ツールをコンピュータにインストールするにはユーザーに管理権限が必要です。







## 第 2 章

# 管理者によるサイレントインストール

- [管理者によるサイレントインストールの概要, 5 ページ](#)
- [サイレントインストールのコマンドラインを使用する, 5 ページ](#)
- [生産性向上ツールフラグの表, 6 ページ](#)
- [サイレントアンインストールのコマンドラインを使用する, 7 ページ](#)

## 管理者によるサイレントインストールの概要

あなたがドメイン管理者の場合、サイレントモードを使って、ユーザーコンピュータにログインして通常のユーザーインストールやアンインストールをそのユーザーに代わって実行することができます。



### 重要

旧版の WebEx 生産性向上ツールのサイレントインストールを実行した顧客に最新版へのアップグレードを実行する場合、あなたが、最新版のサイレントインストールを実行する前に、先にサイレントアンインストールを実行することをお勧めします。

## サイレントインストールのコマンドラインを使用する

あなたがドメイン管理者の場合、これらの手順に従いコマンドラインを使って WebEx 生産性向上ツールをインストールします。

### 手順

- ステップ 1** ユーザーのコンピュータにログオンします。
- ステップ 2** MSI パッケージを指定の場所にダウンロードし、Windows コマンドプロンプトを開きます。Windows Vista 環境では [run as administrator] を使って開きます。

**ステップ 3** MSI コマンドを実行し、WebEx 生産性向上ツールのサイレントインストールを実行します。インストール後にコンピュータの再起動を行います。

#### サイレントインストールのコマンドラインの使用例

この例では MSI パッケージの `ptoolsniclient.msi` のすべてのコンポーネントをインストールする方法を示します:

```
msiexec.exe /q /i "ptoolsniclient.msi" SITEURL="https://sample.webex.com" OI=1 NI=1 OC=1 OFFICE=1 IE=1 FIREFOX=1 RMENU=1 SKYPE=1 SAMETIME=1 </p>
```

この例では MSI パッケージの `ptools.msi` のすべてのコンポーネントをインストールする方法を示します:

```
msiexec.exe /q /i "ptools.msi" SITEURL="https://sample.webex.com" OI=1 OC=1 OFFICE=1 IE=1 FIREFOX=1 RMENU=1 SKYPE=1 SAMETIME=1 </p>
```

あなたが大規模展開で SCCM を使用している場合、`/qb` パラメータを使用することもできます。大規模展開中にこのパラメータを使うことで、ユーザーにインストールの経過を表示することができます。

この例では MSI パッケージの `ptools.msi` のすべてのコンポーネントをインストールする方法を示します:

```
msiexec.exe /qb /i "ptools.msi" SITEURL="https://sample.webex.com" OI=1 OC=1 OFFICE=1 IE=1 FIREFOX=1 RMENU=1 SKYPE=1 SAMETIME=1 </p>
```

## 生産性向上ツールフラグの表

| パラメータ名 | 値 (既定?) | 説明   |
|--------|---------|--|
| OI     | 1       | Outlook 連携を有効にする   |
|        | 0 (既定)  | Outlook 連携を無効にする   |
| NI     | 1       | Lotus 連携を有効にする   |
|        | 0 (既定)  | Lotus 連携を無効にする   |
| OC     | 1 (既定)  | WebEx 生産性向上ツールパネル (旧称 WebEx ワンクリックパネル) を有効にして Windows デスクトップおよびスタートメニューに表示する |
|        | 0       | Windows デスクトップおよびスタートメニューから WebEx 生産性向上ツールパネル (旧称 WebEx ワンクリックパネル) を削除する     |

| パラメータ名   | 値 (既定?) | 説明  |
|----------|---------|---|
| AUTOOC   | 0 (既定)  | Windows タスクバーの WebEx 生産性向上ツールパネル (旧称 WebEx ワンクリックパネル) を停止するパネルには [スタート] メニューからアクセスできます。 |
|          | 1       | Windows タスクバーの WebEx 生産性向上ツールパネル (旧称 WebEx ワンクリックパネル) を自動的に開始する                         |
| OFFICE   | 1       | Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint) の WebEx ツールバーを有効にする                            |
|          | 0 (既定)  | Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint) の WebEx ツールバーを無効にする                            |
| IE       | 1       | Internet Explorer の WebEx ボタンを有効にする   |
|          | 0 (既定)  | Internet Explorer の WebEx ボタンを無効にする   |
| FIREFOX  | 1       | Firefox の WebEx ボタンを有効にする   |
|          | 0 (既定)  | Firefox の WebEx ボタンを無効にする   |
| RMENU    | 1       | 右クリックメニューを有効にする   |
|          | 0 (既定)  | 右クリックメニューを無効にする   |
| SKYPE    | 1       | Skype のインスタントメッセージ連携を有効にする  |
|          | 0 (既定)  | Skype のインスタントメッセージ連携を無効にする  |
| SAMETIME | 1       | Sametime のインスタントメッセージ連携を有効にする   |
|          | 0 (既定)  | Sametime のインスタントメッセージ連携を無効にする   |
| MSN      | 1       | MSN、Microsoft Office Communicator、Windows Messenger のインスタントメッセージ連携を有効にする                |
|          | 0 (既定)  | MSN、Microsoft Office Communicator、Windows Messenger のインスタントメッセージ連携を無効にする                |

## サイレントアンインストールのコマンドラインを使用する

あなたがドメイン管理者の場合、これらの手順に従いコマンドラインを使って WebEx 生産性向上ツールをアンインストールします。

## 手順

- 
- ステップ 1** 適切なバージョンの MSI パッケージをダウンロードし、Windows コマンドプロンプトを開きます。
- パッケージはユーザーのデスクトップにインストールされているものと同じバージョンでなければなりません。複数のバージョンがある場合、インストール済みの各バージョンのパッケージに対し、アンインストールを行う必要があります。
- Windows Vista 環境では [run as administrator] を使って開きます。
- ステップ 2** MSI コマンドを実行し、WebEx 生産性向上ツールをサイレントにアンインストールします。
- 

## サイレントアンインストールのコマンドラインの使用例

この例では MSI パッケージの `ptoolsniclient.msi` のすべてのコンポーネントをアンインストールする方法を示します:

```
msiexec.exe /q /x "ptoolsniclient.msi"
```

この例では MSI パッケージの `ptools.msi` のすべてのコンポーネントをアンインストールする方法を示します:

```
msiexec.exe /q /x "ptools.msi"
```



## 第 3 章

# SMS を使ったサイレントインストール

- [SMS を使ったサイレントインストールの概要, 9 ページ](#)
- [サイレントインストールとアンインストールの制限, 9 ページ](#)
- [無人システムごとの SMS を使用して WebEx 生産性向上ツールを告知する, 10 ページ](#)
- [無人システムごとの SMS を使って生産性向上ツールコンポーネントを削除する, 21 ページ](#)
- [無人システムごとの SMS を使って生産性向上ツールコンポーネントを追加する, 22 ページ](#)
- [無人システムごとの SMS を使って生産性向上ツールコンポーネントをアンインストールする, 25 ページ](#)
- [Program に新しいバージョンの WebEx 生産性向上ツールの更新を通知する, 26 ページ](#)
- [定義からパッケージを作成する, 27 ページ](#)

## SMS を使ったサイレントインストールの概要

サイレントインストールで WebEx 生産性向上ツールがインストールされていると、ユーザーが別のサイトに切り替えた後でもツール上のすべてのオプションが無効状態になっているため、サイト設定を更新することができません。



### 重要

旧版の WebEx 生産性向上ツールの大量展開を実行した顧客に最新版へのアップグレードを実行する場合、あなたが、最新版の大量インストールを実行する前に、先にサイレントアンインストールを実行することをお勧めします。

## サイレントインストールとアンインストールの制限

- ユーザーモードごとの SMS には対応していません。

アンインストールを行うには、最初のオリジナルインストールパッケージを使う必要があります。大規模展開後に WebEx 生産性向上ツールを更新していたとしても最初のものを使用します。複数のバージョンがある場合、インストール済みの各バージョンに対し、アンインストールを行う必要があります。

- WebEx と Lotus Notes の連携にはこれらの制限があります:
  - WebEx 生産性向上ツールがサイレントインストールでインストールされている場合、WebEx ボールは Lotus Notes ツールバー上には表示されません。
  - システムへの2回目のログイン時、ユーザーは Lotus Notes 連携を使い始める前に WebEx 設定ダイアログボックスでアカウント情報を入力する必要があります。
- MSN、Sametime、および Lotus Notes がインストールされていないマシンに WebEx 生産性向上ツールをインストールすると、[ツール] タブの適切なオプションがオフになって選択不能な状態になっています。
- SMS 管理者が WebEx 生産性向上ツールの機能を追加する場合、管理者はまず **[REMOVE]** コマンドを実行する必要があります。それから、**[ADDSOURCE]** コマンドを実行します。以前に機能がインストールされていない場合でもこれを実行します。
- 管理者がパッケージを通知している間にユーザーがリモートデスクトップでコンピュータにログオンする場合、そのユーザーは、WebEx 生産性向上ツールが正常に機能していること確保するために、コンピュータを再起動する必要があります。
- サイレントインストール後、ユーザーがコンピュータからいったんログオフし、ログオンしなおすまで、すべてのインスタントメッセージ連携は有効になりません。
- 管理者が Sametime 連携を削除した後でも、ユーザーは、コンピュータからいったんログオフし、ログオンし直すまでは使い続けることができます。
- 対象サイトがコマンドラインで指定されているのが CMR Hybrid サイトである場合、ユーザーはプロンプトメッセージに従い、Outlook を再起動して CMR Hybrid ミーティングのスケジュールリングを行います。
- 対象サイトがコマンドラインのコマンドで指定されているのが Collaboration Meeting Rooms (CMR) Hybrid サイトである場合、ユーザーは CMR Hybrid ミーティングのスケジュールリングを行う前に Microsoft Outlook を再起動するようにプロンプトで促されます。

## 無人システムごとの SMS を使用して WebEx 生産性向上ツールを告知する

これらの手順に従い、WebEx 生産性向上ツールをインストールします。

### はじめる前に

あなたが SMS 管理者である場合、これらの事前インストールの手順に従い、無人システムごとの SMS を使って WebEx 生産性向上ツールの告知を行います:

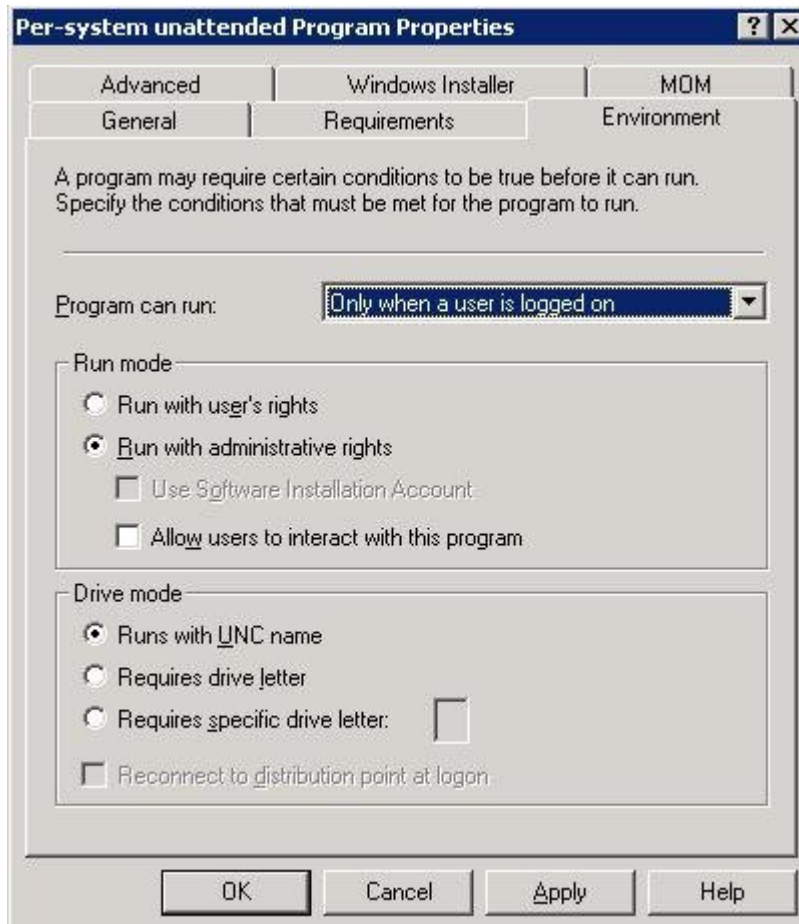
- WebEx サイト管理オプションで生産性向上ツールページの自動表示および自動更新を無効にします:
  - 1 サイト管理ページにログインし、[サイト設定 > 生産性向上ツール] に移動します。
  - 2 [主催者がサイトにログインしたら生産性向上ツールページを表示する] オプションおよび [新しいバージョンが入手可能になった時に、自動的に生産性向上ツールをアップデートする] オプションのチェックを解除します。
- Lotus Notes 連携が有効になっている場合、Lotus Notes の WebEx スクリプトをインストールします。

インストールに Lotus Notes 連携が含まれ、さらに Lotus Notes 連携オプションが選択されている場合、Domino 管理者は、Notes ユーザーに対し管理ツールを使って WebEx と Notes 連携のスクリプトをインストールする必要があります。

詳細は次を参照してください。 [管理ツールを使用して WebEx の Notes スクリプトをインストールする](#), (33 ページ)

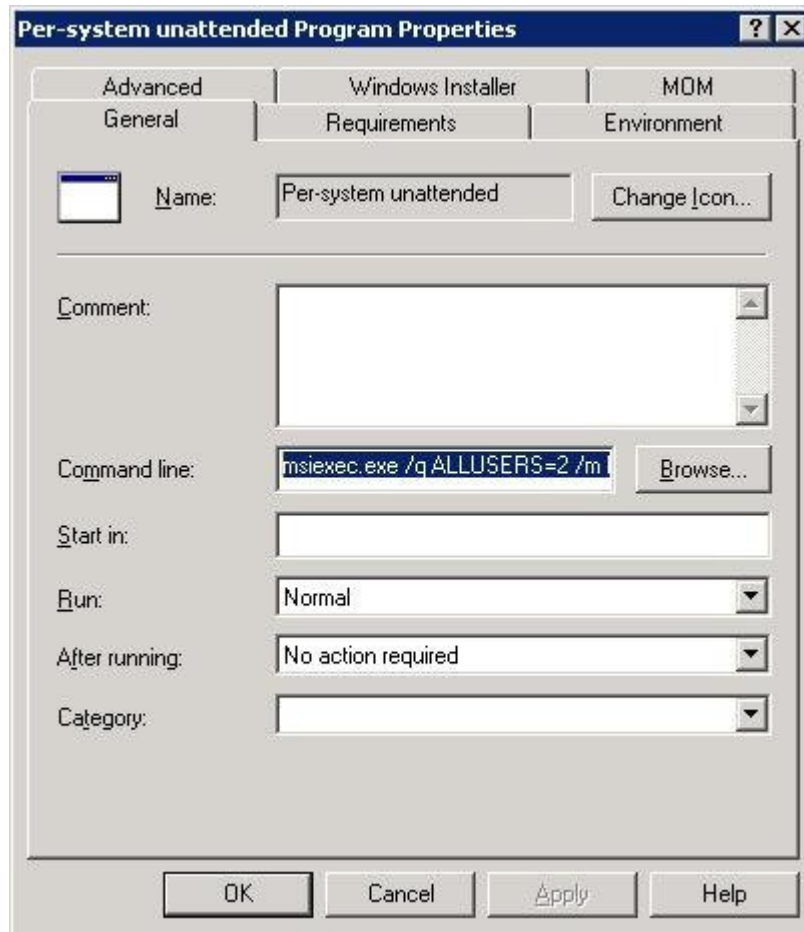
## 手順

- 
- ステップ 1** 定義からパッケージを作成します。  
詳細は次を参照してください。 [定義からパッケージを作成する](#), (27 ページ)
- ステップ 2** 告知の前に [Per-system unattended] にプログラムオプションを変更します。
- a) SMS 管理者コンソールを開き、[Site Database > Packages > WebEx Communications, Inc WebEx Productivity Tools 1.0.xx English > Programs] の順に選択します。管理者は [Per-system unattended] を右クリックし、[Properties] を選択し、[Per-system unattended Program Properties] ダイアログボックスを開きます。
  - b) [Properties] ダイアログボックスで [Environment] タブを選択します。
    - [Program can run] オプションで [Only when a user is logged on] を選択します。
    - [Run mode] オプションで [Run with administrative rights] を選択します。 ([Allow users to interact with this program] はオンにしないでください。)



- c) [Properties] ダイアログで [General] タブを選択します。
- d) コマンドラインオプションに追加のパラメータを追加して WebEx 生産性向上ツールの一部のオプションを指定します:
- SITEURL="http://sample.webex.com" を追加してあなたの会社で使用する WebEx サイト URL を指定します。
  - 生産性向上ツールのフラグを追加して、WebEx 生産性向上ツールで有効にするコンポーネントを選択します。パラメータは大文字で既定値は 0 (無効になっています) です。





次の例で初期のコマンドラインは:

```
msiexec.exe /q ALLUSERS=2 /m MSIZWPBY /i "ptoolsniclient.msi"
```

- 生産性向上ツールのフラグとパラメータをコマンドラインに追加します:

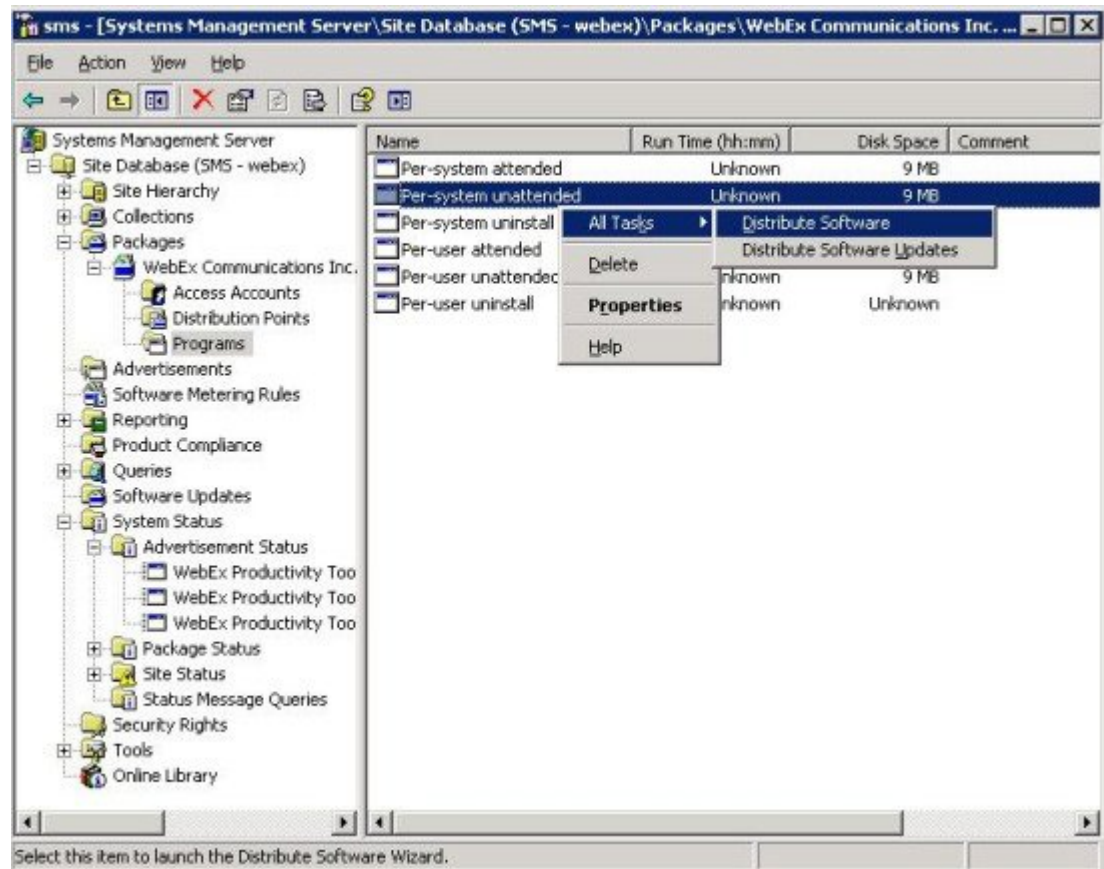
```
msiexec.exe /q ALLUSERS=2 /m MSIZWPBY /i "ptoolsniclient.msi"
SITEURL="https://sample.webex.com" OI=1 NI=1 OC=1 OFFICE=1 IE=1
FIREFOX=1 RMENU=1 YAHOO=1 SKYPE=1 AOL=1 SAMETIME=1 MSN=1 GTALK=1
```

WebEx 生産性向上ツールのリストについての詳細は、[生産性向上ツールフラグの表](#)、(6 ページ) を参照してください。

### ステップ 3 プログラムの告知:

- SMS 管理者コンソールを開き、[Site Database > Packages > WebEx Communications, Inc WebEx Productivity Tools 1.0.xx English > Programs] の順に選択します。
- [Per-system unattended] を右クリックします。
- [All Tasks > Distribute Software] を選択します。

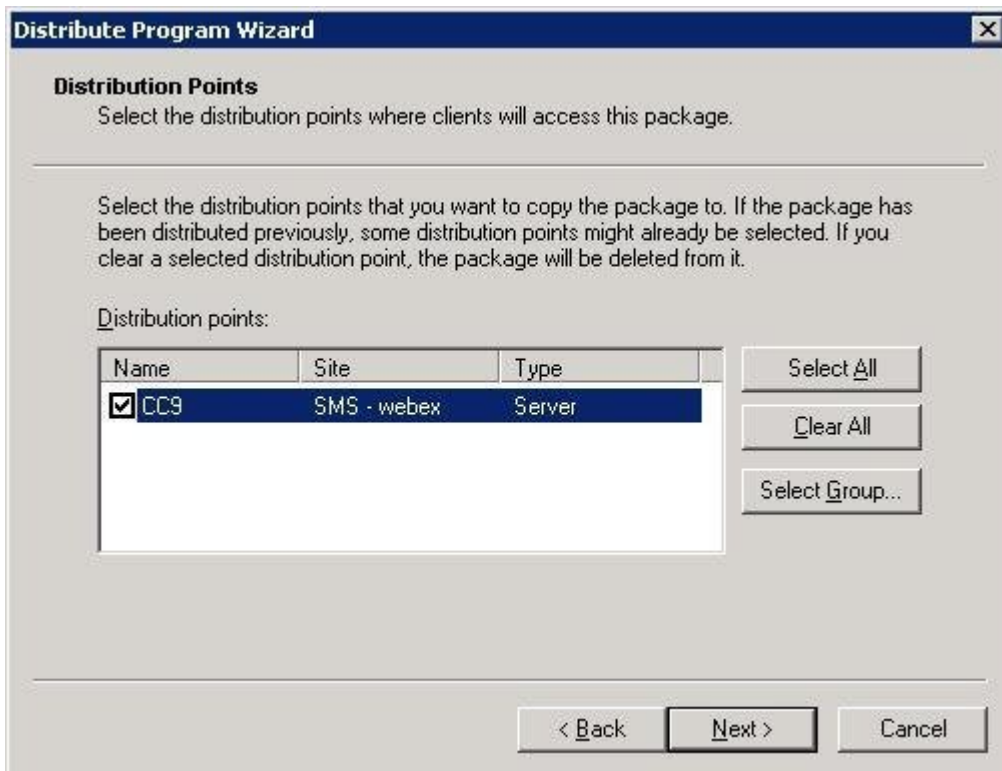
無人システムごとの SMS を使用して WebEx 生産性向上ツールを告知する



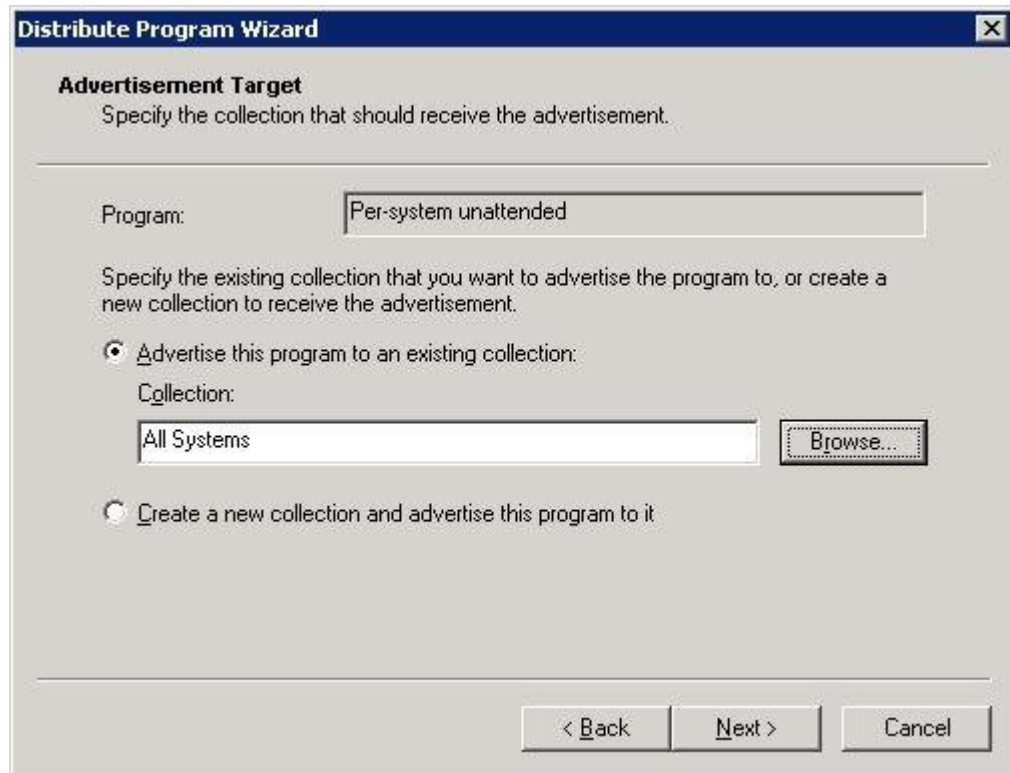
d) Distribute Program Wizard で [次へ] 選択します。



e) SMS サーバーを選択します。



- f) コレクションを選択します。



- g) 告知名を指定します。

**Distribute Program Wizard**

**Advertisement Name**  
Specify a name and comment for the new advertisement.

Type a name to identify the new advertisement. You can also type a comment to further describe the advertisement.

Name: Productivity Tools - Per-system unattended to System : All System

Comment:

< Back   Next >   Cancel

h) 通知でサブコレクションに適用させるかどうかを指定します。

**Distribute Program Wizard**

**Advertise to Subcollections**  
Specify whether the advertisement should apply to subcollections.

Collection: All Systems

If this collection has links to other collections (or will in the future), you can advertise the program to members of those collections as well.

Advertise the program only to members of the specified collection

Advertise the program to members of subcollections as well

The program will be advertised to these collections:

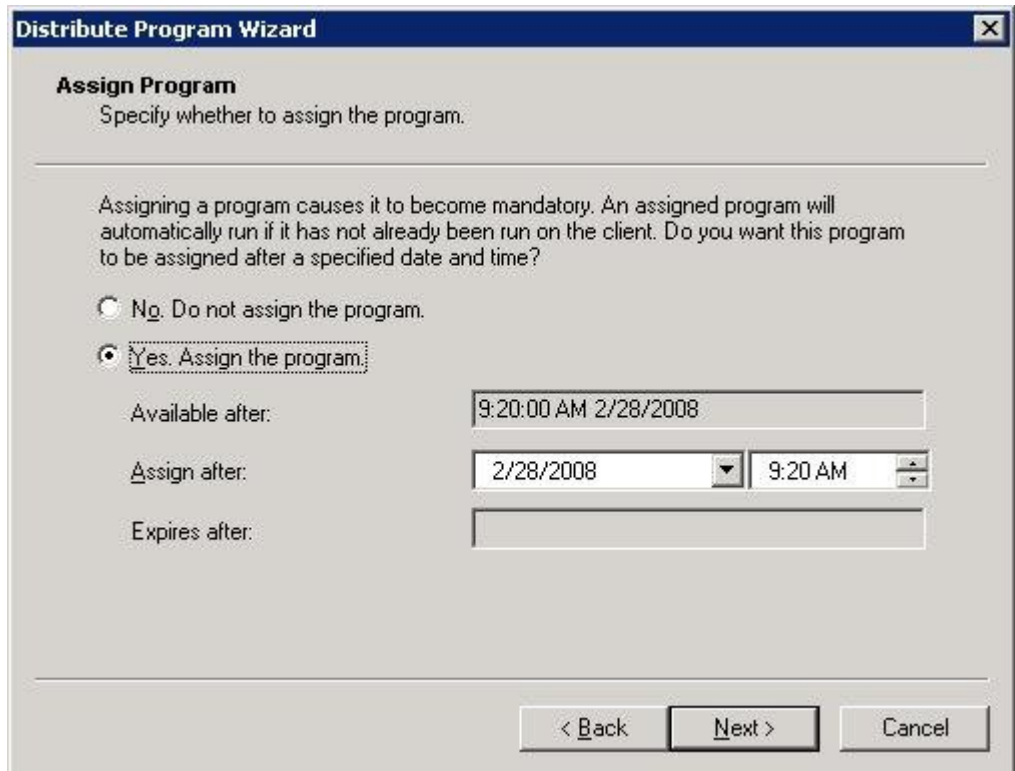
All Systems

< Back   Next >   Cancel

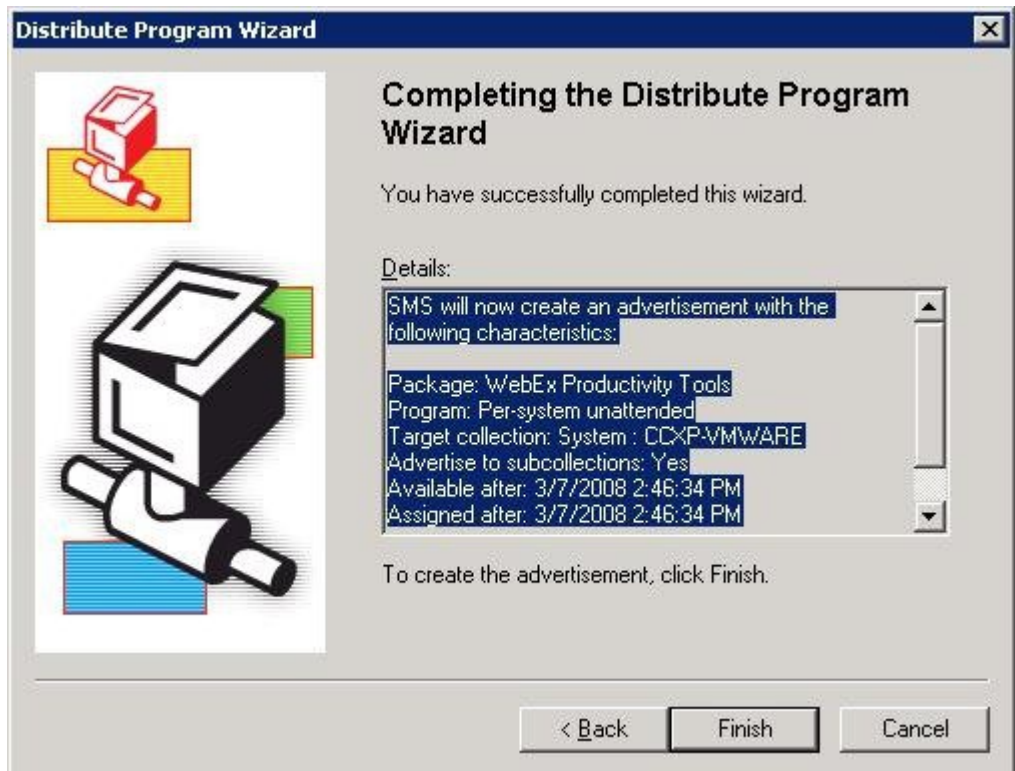
- i) プログラムが通知される日時を指定します。

The screenshot shows a dialog box titled "Distribute Program Wizard" with a close button (X) in the top right corner. The main heading is "Advertisement Schedule" with the instruction "Specify when the program will be advertised." Below this, there are two date and time pickers. The first is labeled "Advertise the program after:" and is set to "8/27/2008" and "1:23 PM". Below this is a question: "This advertisement can be set to expire and therefore no longer be available after a specified date and time, even if the program has not yet run on the client. Do you want this advertisement to expire?". There are two radio button options: "No. This advertisement never expires." (which is selected) and "Yes. This advertisement should expire." Below these is another date and time picker labeled "Expiration date and time:" set to "8/27/2008" and "1:23 PM". At the bottom of the dialog are three buttons: "< Back", "Next >", and "Cancel".

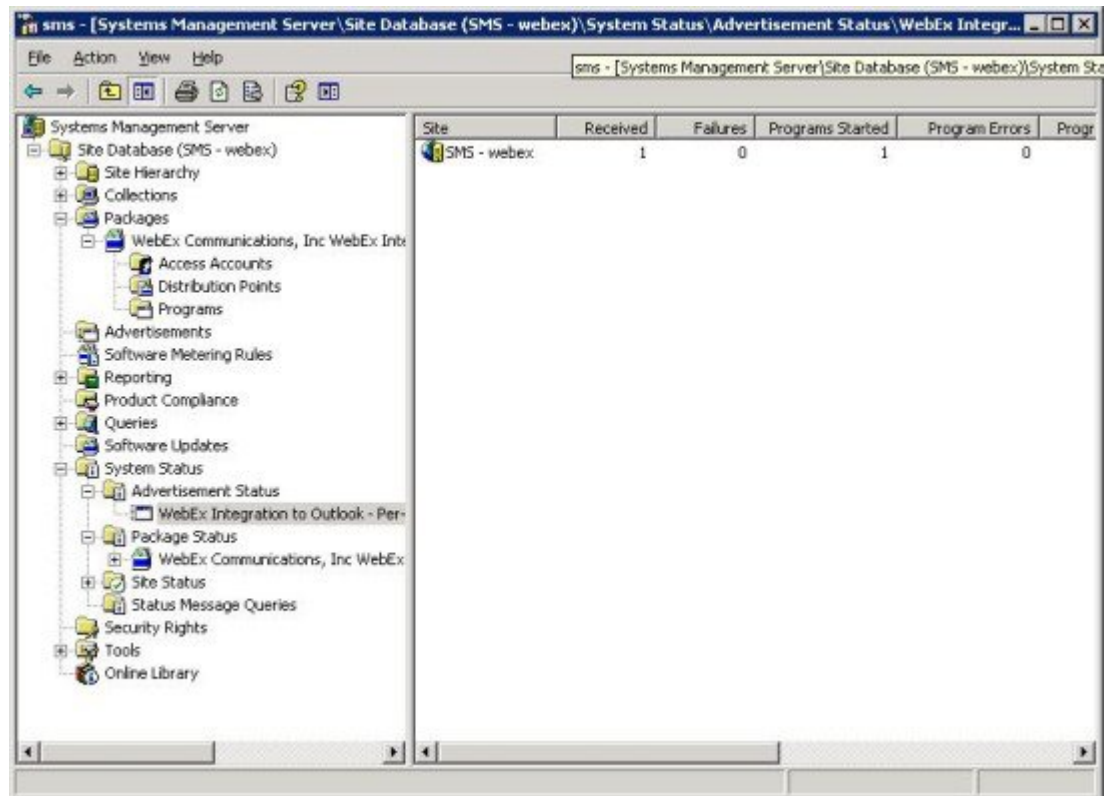
- j) プログラムを割り当てるかどうかを指定します。



k) Distribute Program Wizard ページの完了時に完了を選択します。



- l) \Site Database\System Status\Advertisement Status ディレクトリに移動し、通知の状態を確認します。



- m) 通知を有効にするには、プログラムが通知されるとユーザーに次のメッセージが表示されます。割り当てられるプログラムはサイレントで実行されます。





## 無人システムごとのSMSを使って生産性向上ツールコンポーネントを削除する

あなたが SMS 管理者の場合、これらの手順に従い、生産性向上ツールのコンポーネントに従います。

WebEx 生産性向上ツールはこれらのマシンでサイレントに更新されます。

### はじめる前に

あなたが Domino 管理者で、さらにこのインストールに Lotus Notes 連携を加えるには、Notes ユーザーのために管理ツールを使って Notes Scripts を削除します。詳細については次を参照してください。[管理ツールを使用して WebEx の Notes スクリプトをインストールする](#)、(33 ページ)

### 手順

- ステップ 1** 新しいプログラムを作成し、[per-system unattended program] からすべてのオプションをコピーし、コマンドラインを更新します:

- a) SMS 管理者コンソールを開き、[Site Database > Packages > WebEx Communications, Inc WebEx Productivity Tools 1.0.xx English > Programs] の順に選択します。
- b) 右クリックし、[New> Pgorgam] を選択します。
- c) プログラム名を入力し、既定のコマンドラインを入力します。
- d) [Properties] ダイアログボックスで [Environment] タブを選択します。
  - [Program can run] オプションで [Only when a user is logged on] を選択します。
  - [Run mode] オプションで [Run with administrative rights] を選択します。 ([Allow users to interact with this program] はオンにしないでください。)
- e) [General] タブでコマンドラインを更新します。  
コマンドラインに [REMOVE] を追加して、削除する機能を指定します。

| パラメータ名 | 値   | 説明   |
|--------|---|--|
| 削除     | OI,NI,OFFICE,IE,<br>FIREFOX,RMENU,PTIM,<br>SAMETIME | 削除する生産性向上ツールの機能を指定します。(コマンドで区切ります。引用符が必要です。) |

例えば、RMENU および OFFICE を削除する場合、次のコマンドラインを使用します:

```
msiexec.exe /q ALLUSERS=2 /m MSII5HK3 /i "ptools.msi" REMOVE="OFFICE,RMENU"
```

PTIM 値は WebEx とインスタントメッセージの連携です。次のコマンドラインに表示される通りに PTIM を使用することができます:

```
msiexec.exe /q ALLUSERS=2 /m MSII5HK3 /i "ptools.msi" REMOVE="PTIM"
```

- ステップ 2** ドメイン中の指定の業務マシンのコレクションに対しプログラムのアドバタイズを行います。WebEx 生産性向上ツールはこれらのマシンでサイレントに更新されます。詳細については次を参照してください。 [SMS を使ったサイレントインストール, \(9 ページ\)](#)
- ステップ 3** WebEx 生産性向上ツールはこれらのマシンでサイレントに更新されます。

## 無人システムごとの SMS を使って生産性向上ツールコンポーネントを追加する

あなたが SMS 管理者の場合、これらの手順に従い、生産性向上ツールをインストールします。

## はじめる前に

あなたが SMS 管理者で生産性向上ツールのコンポーネントを追加したい場合、まず最初に [REMOVE] を実行し、それから [ADDSOURCE] を実行します。コンポーネントがインストールされていない場合でもこの操作を行います。

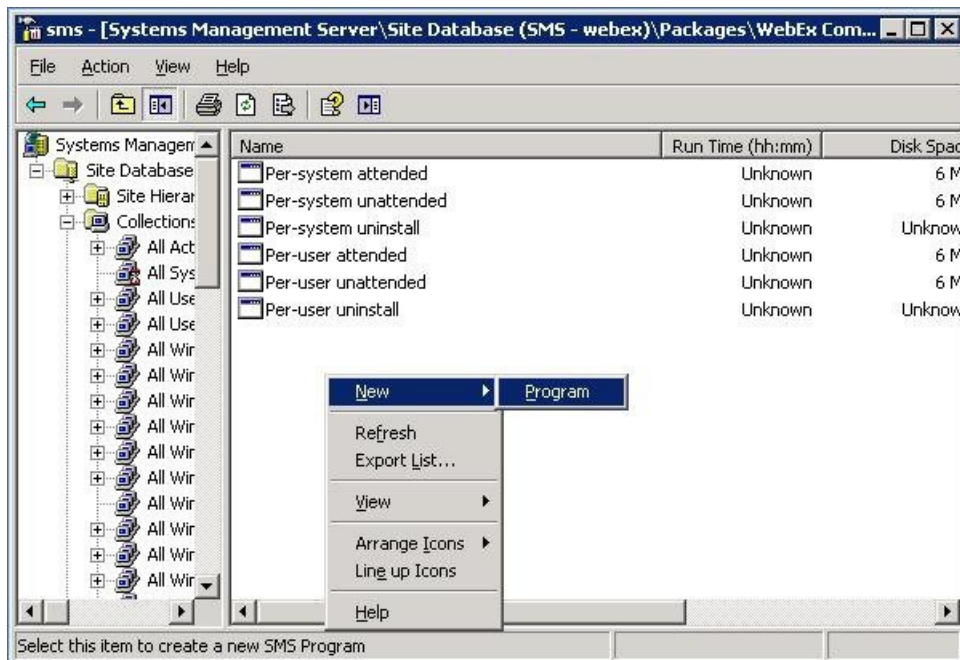
あなたが Domino 管理者で、さらにこのインストールに Lotus Notes 連携を加えるには、Notes ユーザーのために管理ツールを使って Notes Scripts をアンインストールします。詳細については次を参照してください。管理ツールを使用して WebEx の Notes スクリプトをインストールする、(33 ページ)

## 手順

### ステップ 1

[Add-phase1] という名前で新しいプログラムを作成し、セクション 4.1 で作成した [per-system unattended program] からすべてのオプションをコピーし、コマンドラインを更新します:

- SMS 管理者コンソールを開き、[Site Database > Packages > WebEx Communications, Inc WebEx Productivity Tools 1.0.xx English > Programs] の順に選択します。
- 空領域で右クリックし、[New > Program] を選択します。
- プログラム名を入力し、既定のコマンドラインを入力します。



- [Properties] ダイアログボックスで [Environment] タブを選択します。
  - [Program can run] オプションで [Only when a user is logged on] を選択します。
  - [Run mode] オプションで [Run with administrative rights] を選択します。( [Allow users to interact with this program] はオンにしないでください。)

無人システムごとの SMS を使って生産性向上ツールコンポーネントを追加する

- e) [General] タブでコマンドラインを更新します。  
 コマンドラインに [REMOVE] を追加して、削除する機能を指定します。

| パラメータ名 | 値   | 説明  |
|--------|---|---|
| 削除     | OI,NI,OFFICE,IE,<br>FIREFOX,RMENU,PTIM,<br>SAMETIME | 削除する生産性向上ツールの機能を指定します。(コンマで区切ります。引用符が必要です。) |

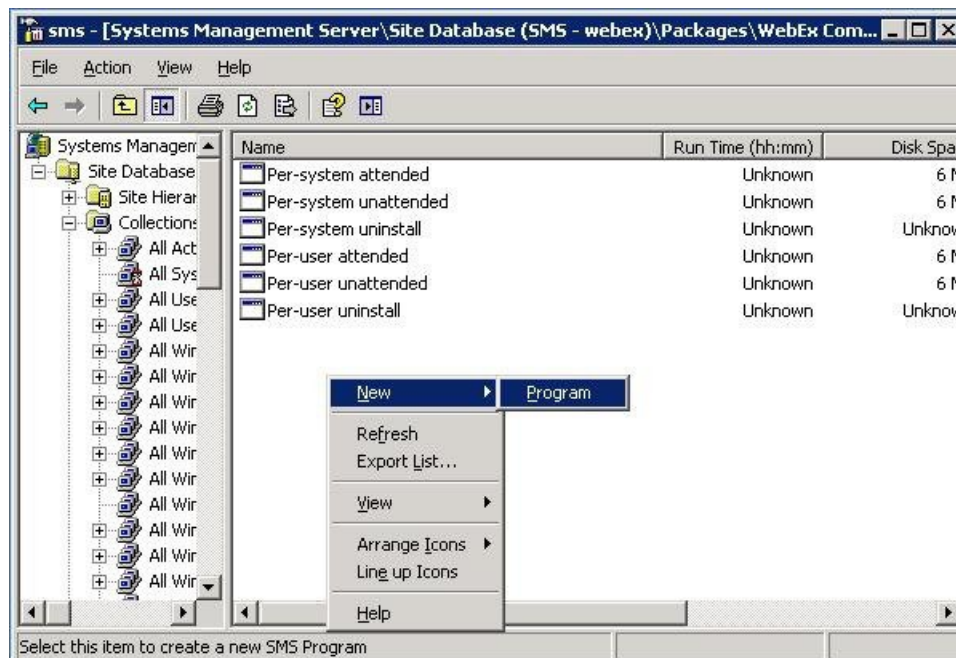
RMENU、OFFICE、および PTIM (PTIM 値は WebEx とインスタントメッセージ連携用です)、最初に [REMOVE] を実行する必要があります。インストールされていないくてもこの操作が必要です。次にコマンドラインの例を示します:

```
msiexec.exe /q ALLUSERS=2 /m MSII5HK3 /i "ptools.msi" REMOVE="OFFICE,RMENU,PTIM"
```

- ステップ 2** ドメイン中の指定の業務マシンのコレクションに対しプログラムの通知を行います。詳細については次を参照してください。 [無人システムごとの SMS を使用して WebEx 生産性向上ツールを告知する、\(10 ページ\)](#)

- ステップ 3** [Add-phase2] という名前で 2 つめのプログラムを作成し、セクション 4.1 で作成した [per-system unattended program] からすべてのオプションをコピーし、コマンドラインを更新します:

- SMS 管理者コンソールを開き、[Site Database > Packages > WebEx Communications, Inc WebEx Productivity Tools 1.0.xx English > Programs] の順に選択します。
- 空領域で右クリックし、[New > Program] を選択します。
- プログラム名を入力し、既定のコマンドラインを入力します。



- d) [Properties] ダイアログボックスで [Environment] タブを選択します。
- [Program can run] オプションで [Only when a user is logged on] を選択します。
  - [Run mode] オプションで [Run with administrative rights] を選択します。 ([Allow users to interact with this program] はオンにしないでください。)
- e) Properties ダイアログで **Advanced** タブを選択し、[Run another program first] を有効にしたら、プログラム [Add-phase1] を選択します。
- f) [General] タブでコマンドラインを更新します。  
コマンドラインに [ADDSOURCE] を追加して、追加する機能を指定します。

| パラメータ名    | 値   | 説明   |
|-----------|---|--|
| ADDSOURCE | OI,NI,OFFICE,IE,<br>FIREFOX,RMENU,PTIM,<br>SAMETIME | 削除する生産性向上ツールの機能を指定します。(コマンドで区切ります。引用符が必要です。) |

例えば、RMENU、OFFICE、YAHOO を追加する場合、次のコマンドラインを使用します:

```
msiexec.exe /q ALLUSERS=2 /m MSII5HK3 /i "ptools.msi" ADDSOURCE="OFFICE,RMENU,PTIM"
OFFICE=1 RMENU=1 YAHOO=1
```

- ステップ 4** ドメイン中の指定の業務マシンのコレクションに対しプログラムの通知を行います。  
詳細については次を参照してください。 [無人システムごとの SMS を使用して WebEx 生産性向上ツールを告知する, \(10 ページ\)](#)

WebEx 生産性向上ツールはこれらのマシンでサイレントに更新されます。

## 無人システムごとの SMS を使って生産性向上ツールコンポーネントをアンインストールする

あなたが SMS 管理者である場合、これらのアンインストールの手順に従い、無人システムごとの SMS を使って WebEx 生産性向上ツールのアンインストールを行います:

### はじめる前に

あなたが Domino 管理者で、さらにこのインストールに Lotus Notes 連携を加えるには、Notes ユーザーのために管理ツールを使って Notes Scripts をアンインストールします。詳細については次を参照してください。 [管理ツールを使用して WebEx の Notes スクリプトをインストールする, \(33 ページ\)](#)

## 手順

- 
- ステップ 1** 定義からパッケージを作成する、[\(27 ページ\)](#) を使って作成された SMS インストールパッケージを使用します。
- ステップ 2** per-system uninstall program に通知して WebEx 生産性向上ツールをアンインストールします。WebEx 生産性向上ツールはこれらのマシンでサイレントにアンインストールされます。
- 

# Program に新しいバージョンの WebEx 生産性向上ツールの更新を通知する

あなたの SMS サイト管理者の場合、プログラムに新しいバージョンの WebEx 生産性向上ツールに更新するための通知をする前にこれらの手順に従います:

## はじめる前に

あなたの WebEx サイト管理者の場合、プログラムに新しいバージョンの WebEx 生産性向上ツールに更新するための通知をする前にこれらの手順に従います:

- WebEx サイト管理オプションで生産性向上ツールページの自動表示および自動更新を無効する
  - サイト管理ページにログインし、[サイト設定 > 生産性向上ツール] に移動し、[主催者がサイトにログインしたら生産性向上ツールページを表示する] および [新しいバージョンが入手可能になった時に、自動的に生産性向上ツールをアップデートする] のオプションのチェックを解除します。
- あなたが Domino 管理者で、さらにこのインストールに Lotus Notes 連携を加えるには、Notes ユーザーのために管理ツールを使って Notes Scripts を更新します。詳細については次を参照してください。管理ツールを使用して WebEx の Notes スクリプトをインストールする、[\(33 ページ\)](#)

## 手順

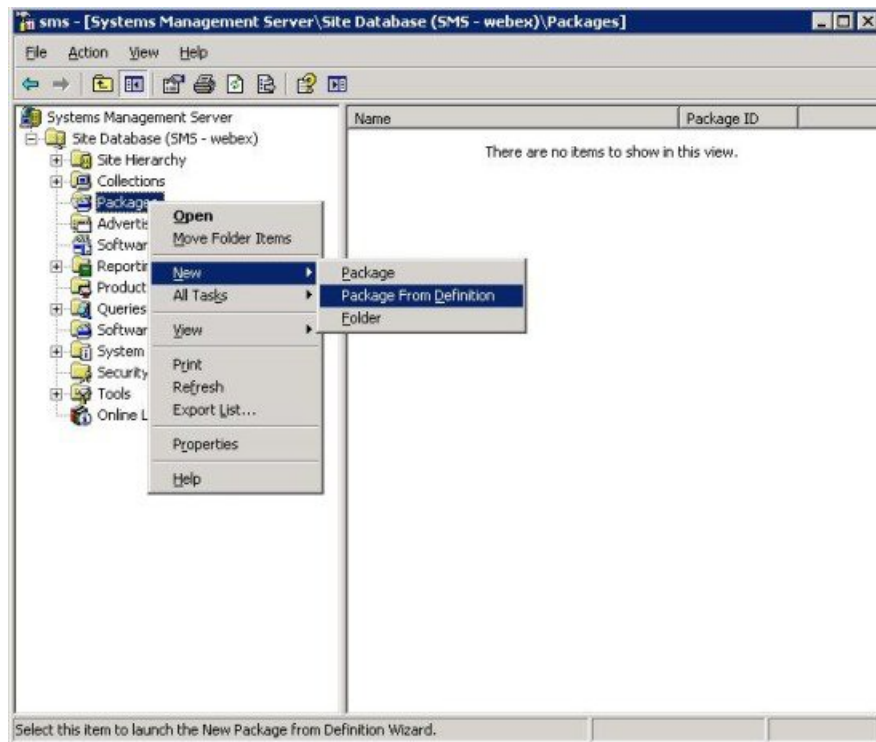
- 
- ステップ 1** WebEx 生産性向上ツールの MSI パッケージを使って新しい SMS インストールパッケージを作成します。
- ステップ 2** 告知の前に [Per-system unattended] にプログラムオプションを変更します。
- ステップ 3** プログラムを告知します。  
古い WebEx 生産性向上ツールが削除され、新しい WebEx 生産性向上ツールがサイレントでインストールされます。
-

## 定義からパッケージを作成する

あなたが SMS 管理者の場合、これらの手順に従い、定義を使ってパッケージを作成します。

### 手順

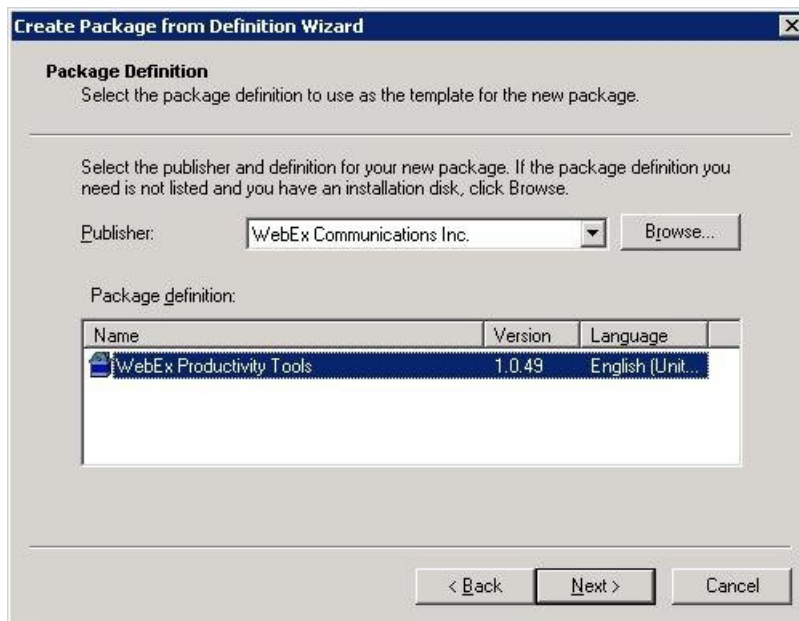
- ステップ 1 SMS 管理者コンソールを開き、[Site Database > Package] に移動します。
- ステップ 2 [Package] を右クリックします。
- ステップ 3 [New > Package From Definition] を選択します。



- ステップ 4 [Create Package from Definition] ウィザードで [Next] を選択します。

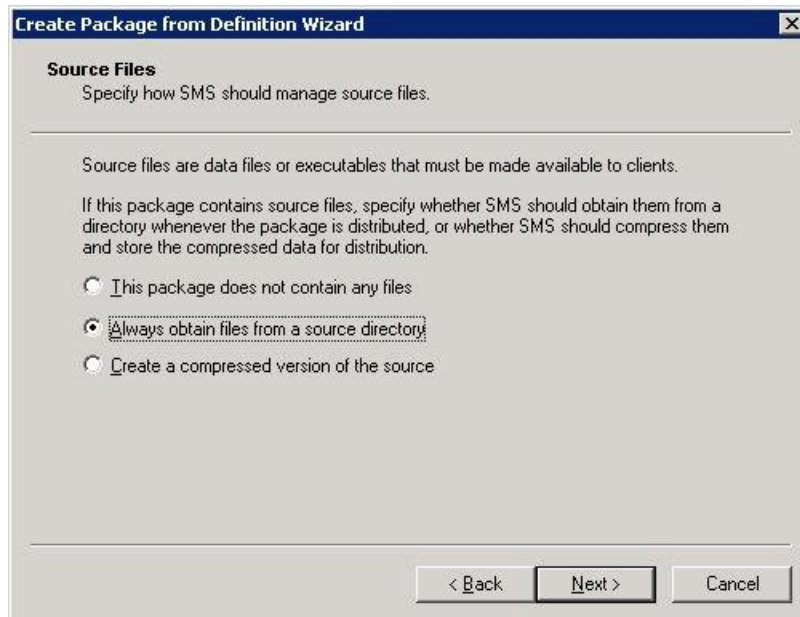


ステップ 5 [Browse] を選択してファイルを参照し、[WebEx Productivity Tools MSI package] を選択します。

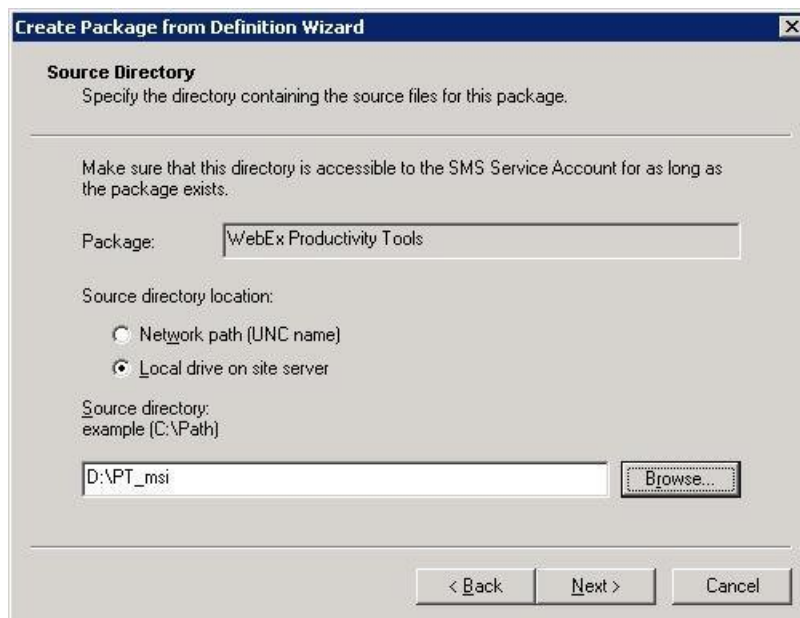


ステップ 6 [Always obtain files from a source directory] を選択します。





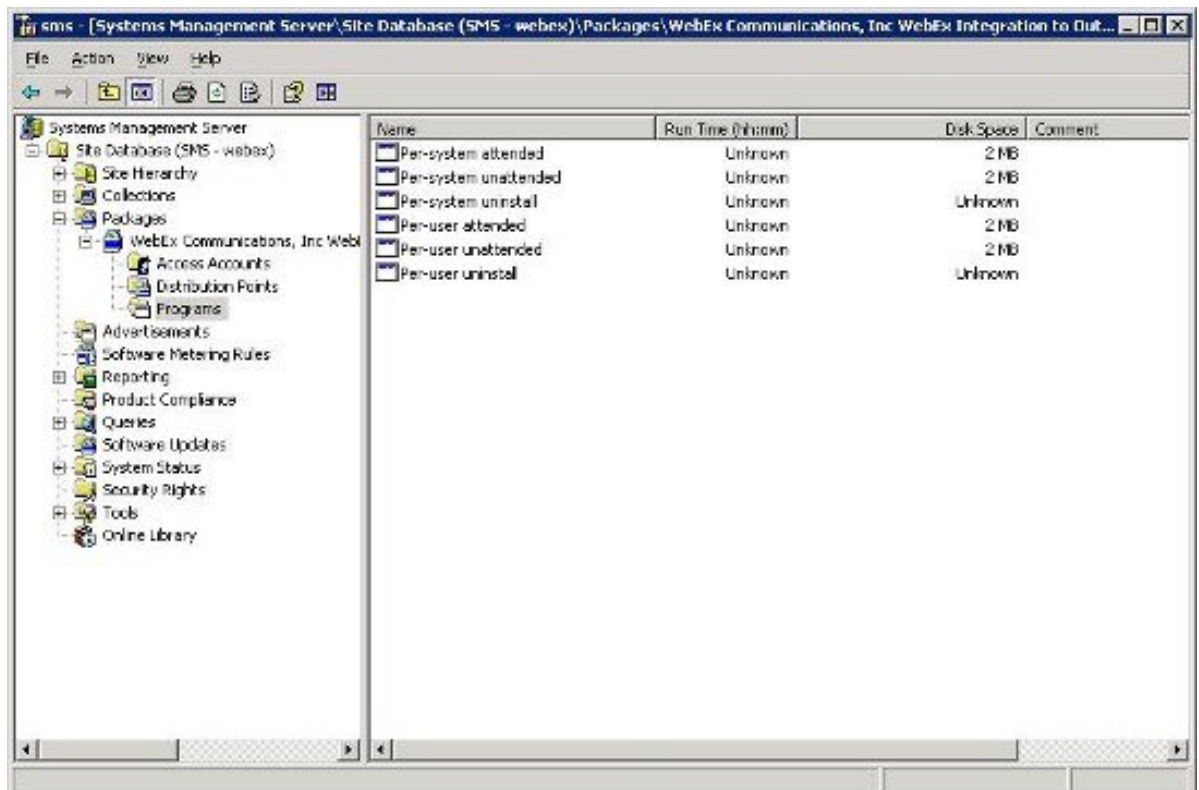
**ステップ 7** [Source directory location] を選択します。このディレクトリパスはインストールパッケージが含まれるフォルダを指します。



**ステップ 8** [完了] を選択します。



- ステップ 9 [Site Database > Packages > WebEx Communications, Inc WebEx Productivity Tools 1.0.xx English > Programs] の順に選択します。  
6 個の既定のプログラムが利用できます。





■ 定義からパッケージを作成する



## 第 4 章

# 管理ツールを使用して WebEx の Notes スクリプトをインストールする

- [WebEx と Lotus Notes の連携管理ツールをインストールする, 33 ページ](#)
- [新しいメールテンプレートを作成する, 34 ページ](#)
- [新しく作成された WebEx メールテンプレートを単一または複数のユーザーに割り当てる, 36 ページ](#)
- [単一のユーザーに新しい WebEx テンプレートを割り当てる, 37 ページ](#)
- [WebEx と Lotus Notes の連携テンプレートを複数ユーザーに割り当てる, 38 ページ](#)

## WebEx と Lotus Notes の連携管理ツールをインストールする

以下では Domino Server 上で Lotus Notes 用の WebEx スクリプト展開方法について記載しています。

Domino Server 上で WebEx と Lotus Notes の連携を展開するには、あなたが Domino 管理者でなければなりません。Domino 管理者は Support ページの Download セクションで利用できる **ptdomtl.msi** ファイルを使用します。

Lotus Notes 管理がインストールされている Windows PC 上の Lotus Notes 連携用に **ptdomtl.msi** インストーラを使って WebEx 管理ツールをインストールします。

管理ツールがインストールされると、Windows スタートメニュー (スタート > プログラム > WebEx > WebEx NI Admin Tool) にショートカットが自動的に追加されます。

WebEx と Lotus Notes の連携管理ツールはコマンドラインを使用するアプリケーションです。Windows コマンドプロンプトで Lotus Notes クライアントがインストールされているディレクトリから管理ツールを実行します。例えば、Lotus Notes クライアントが **D:\Program Files\lotus\notes** にインストールされている場合、このディレクトリから管理ツールを実行します。

このツールを使い始めるには、コマンドプロンプトで `nwinstal -?` を入力し、ヘルプを参照してください:



```

C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
D:\Program Files\lotus\notes>nwinstal -?
The ID file being used is: D:\Program Files\lotus\notes\data\admin.id
Enter password (press the Esc key to abort):

Syntax:

Commands available to be run on Lotus Administrator computer
nwinstal -?
nwinstal -c [path]filename
nwinstal -i [path]filename
nwinstal -u [path]filename

Commands available to be run on Domino Server machine
nwinstal -r [path]destination-filename source-filename
nwinstal -l [path]user-list-filename source-filename

Where:
[path] It must be a relative path on server.
Use Directory parameter in notes.ini file on Domino server to determine value of
[path].

-? Displays help.

-c Creates a WebEx LNI mail template file based on the mail template you ch
oose.

-r Inserts the WebEx LNI script into a user's mail database from WebEx mail
template.

-l Inserts the WebEx LNI script into a list of user's mail database from We
bEx mail template.

-i This command can be used only for user with Notes Editor access level.
Inserts the WebEx LNI script into a user's mail database without creating WebEx
mail template file.

-u This command can be used only for user with Notes Editor access level.
Removes the WebEx LNI script from a user mail database.

```

## 新しいメールテンプレートを作成する

WebEx と Lotus Notes の連携管理ツールのインストール後、WebEx と Lotus Notes の連携で使用す  
る新しいテンプレートを作成し管理ツールを使って作成します。

Lotus Notes 管理者の Notes クライアントマシンで、Domino サーバー上の既存の Notes メールテン  
プレートをもとに新しい WebEx メールテンプレートをリモートで作成します。例えば、**mail9.ntf**  
ファイルをもとに WebEx メールテンプレートを作成するには、次のコマンドを入力します:

```
nwinstal -c [path]mail9.ntf
```

この [path] の値は Domino Server 上の **notes.ini** ファイルでディレクトリパラメータに指定されてい  
るディレクトリへの相対パスです。メールテンプレートファイルのパスがディレクトリパラメー  
タで指定されているパスと異なる場合、この [path] の値を含める必要があります。例えば、メー

ルテンプレートが **D:\Lotus\Domino\Data** ディレクトリにあり、さらにディレクトリパラメータが `Directory=D:\Lotus\Domino\Data` のように指定されている場合、これらのディレクトリパラメータは同一のものであるため、追加のパス情報を加える必要はありません。このような場合、コマンドは次のようになります:

```
nwinstal -c mail9.ntf
```

しかし、メールテンプレートが **D:\Lotus\Domino\Data\silver** ディレクトリにあり、さらにディレクトリパラメータが `Directory=D:\Lotus\Domino\Data` のように指定されている場合、これらのディレクトリパラメータは異なるものであるため、追加のパス情報を加える必要があります。このような場合、コマンドは次のようになります:

```
nwinstal -c silver\mail9.ntf
```

次に示すものが、`nwinstal -c mail9.ntf` のコマンドによる出力です:

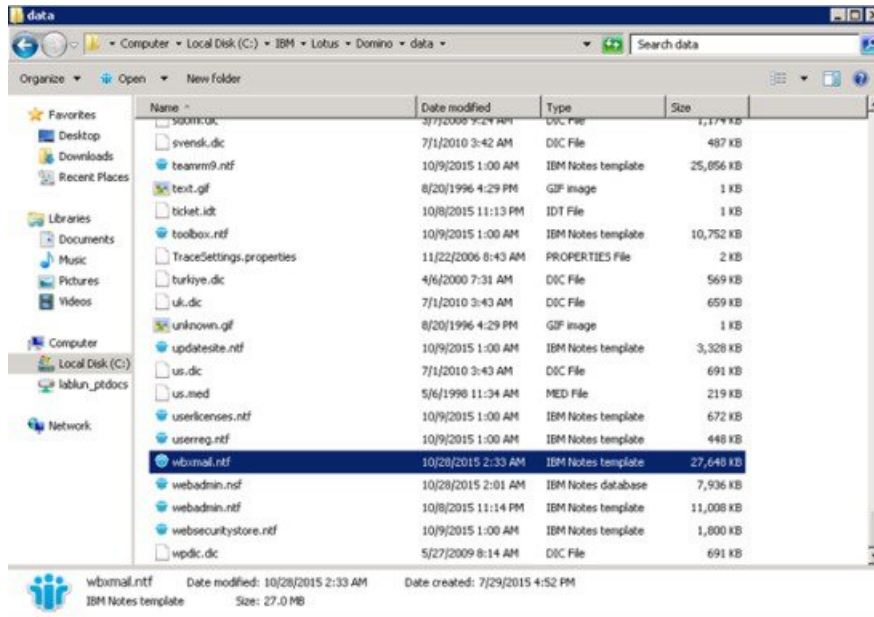
```

C:\Program Files (x86)\IBM\Notes>nwinstal -c mail9.ntf
[0D28:0002-0C9C] The ID file being used is: c:\Program Files (x86)\IBM\Notes\Data\user.id
[0D28:0002-0C9C] Enter password (press the Esc key to abort):
[0D28:0002-0C9C] 10/28/2015 02:33:27 AM Processing mail database mail9.ntf on server CN=dom9srv1/0=std9
[0D28:0002-0C9C] 10/28/2015 02:33:27 AM The process may take a few minutes, please wait...
[0D28:0002-0C9C] 10/28/2015 02:33:27 AM Backup the standard mail template
[0D28:0002-0C9C] 10/28/2015 02:33:28 AM Creating the WebEx mail template, please wait...
[0D28:0002-0C9C] 10/28/2015 02:33:33 AM Initializing...
[0D28:0002-0C9C] 10/28/2015 02:33:33 AM Start installing...
[0D28:0002-0C9C] 10/28/2015 02:33:34 AM Insert Lotus Notes script...
[0D28:0002-0C9C] 10/28/2015 02:33:36 AM Insert WebEx subform...
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $OnlineMeeting_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $tmpAppointmentType_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $displayalarms_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $Subject_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $StartDate_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $StartTime_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $StartTimeZone_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $EndDate_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $EndTime_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $EndTimeZone_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $EnterSendTo_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $EnterCopyTo_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $EnterBlindCopyTo_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $Location_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $RoomToReserve_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $Resources_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $WhiteBoardContent_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $Body_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $Notes_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $SchedulerSwitcher_0
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $DBScript
[0D28:0002-0C9C] Adding sign bit to item $DBScript
[0D28:0002-0C9C] 10/28/2015 02:33:37 AM WebEx mail template is created on server successfully.
C:\Program Files (x86)\IBM\Notes>_

```

コマンドが適切に実行されると、**wbxmail.ntf** という名の新しいテンプレートファイルが Domino Server 上に作成されます。Domino Server にある **notes.ini** で定義されているディレクトリ先に **wbxmail.ntf** テンプレートファイルが作成されます。先述の例では、**wbxmail.ntf** ファイルは **D:\Lotus\DominoD:\Data** ディレクトリで作成されています。次の表を参照してください:

新しく作成された WebEx メールテンプレートを単一または複数のユーザーに割り当てる



## 新しく作成された WebEx メールテンプレートを単一または複数のユーザーに割り当てる

次のセクションでは新しく作成した WebEx テンプレートを単一または複数のユーザーに割り当てる方法について記載しています。



(注) WebEx メールテンプレートファイルに置換する前にすべてのメールテンプレートのバックアップを取るようにしてください。

Unix または Linux など Windows 版を除く Domino では `-r` および `-1` コマンドは使用できません。これらの 2 つのコマンドを使用するには、Windows Domino サーバーに WebEx と Lotus Notes 連携管理ツールをインストールする必要があります。

WebEx メールテンプレートをユーザーに割り当てるコマンドを使用するときに、Domino Server マシンからコマンドを入力する必要があります。



# 単一のユーザーに新しい WebEx テンプレートを割り当てる

単一のユーザーに新しい WebEx テンプレートを割り当てる場合、Domino Server マシンで Domino Administrator Server Console に切り替え、次のコマンドを入力します:

```
load nwinstal -r [path]\[user].nsf [mail template file].ntf
```

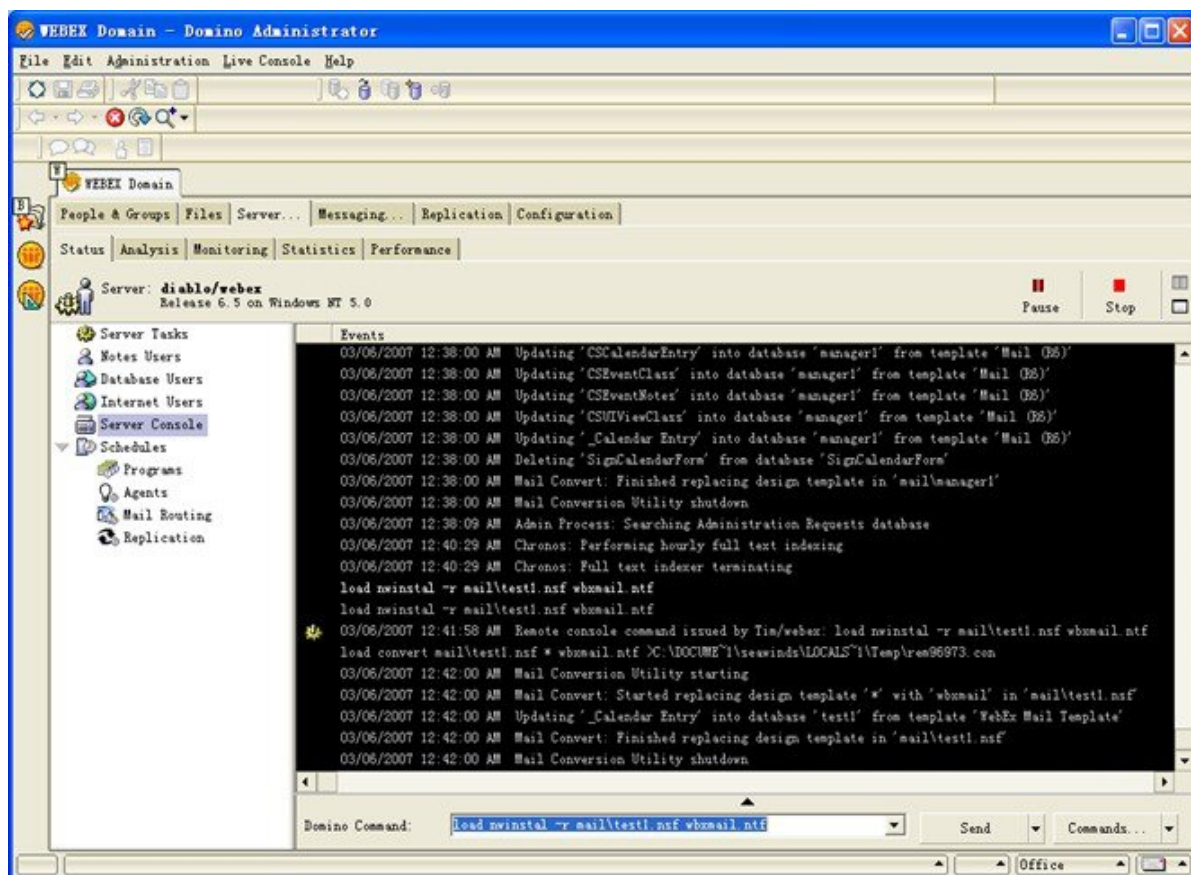
この [path] の値は Domino Server 上の **notes.ini** ファイルでディレクトリパラメータに指定されているディレクトリへの相対パスです。メールテンプレートファイルのパスがディレクトリパラメータで指定されているパスと異なる場合、この [path] の値を含める必要があります。

## 例

ユーザー **test1** にスクリプトを挿入するとします。ユーザーのメールファイル名は **test1.nsf** で、ユーザーのオリジナルテンプレートは **mail6.ntf** です。ユーザーのオリジナルテンプレート **mail6.ntf** を新しい WebEx メールテンプレート **wbxml.ntf** で置換するには、次のコマンドを入力します:

```
load nwinstal -r [path]test1.nsf wbxml.ntf
```

次に示すものがこのコマンドによる出力です:



新しい WebEx メールテンプレートに問題があり、オリジナルのメールテンプレートである **mail9.ntf** に戻りたい場合、次のコマンドを入力することで戻すことができます:

```
load nwinstal -r [path]test1.nsf mail9.ntf
```

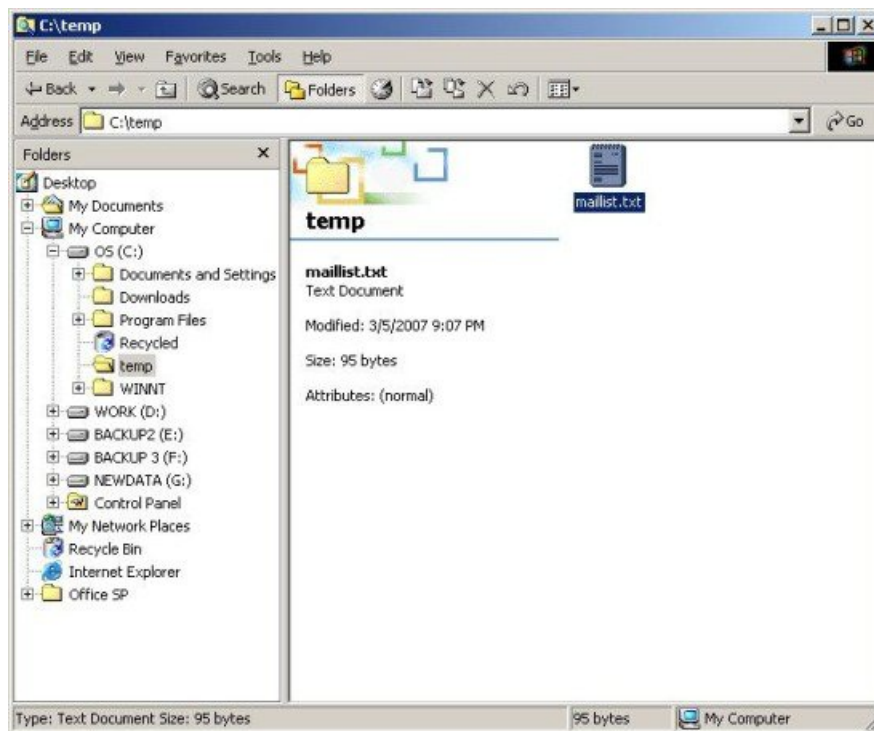
## WebEx と Lotus Notes の連携テンプレートを複数ユーザーに割り当てる

複数のユーザーに新しく作成された WebEx テンプレートを割り当てることができます。

ユーザーリストを作成します。Domino Server Console で次のコマンドを入力します:

```
load convert -l c:\temp\maillist.txt
```

このコマンドにより、**c:\temp** ディレクトリにすべてのメールデータベースの一覧を含むテキストファイル **maillist.txt** が作成されます。ファイルを編集することで今回 WebEx スクリプトのインストールを行わないユーザーを削除します。次に示すものが **maillist.txt** ファイルです。

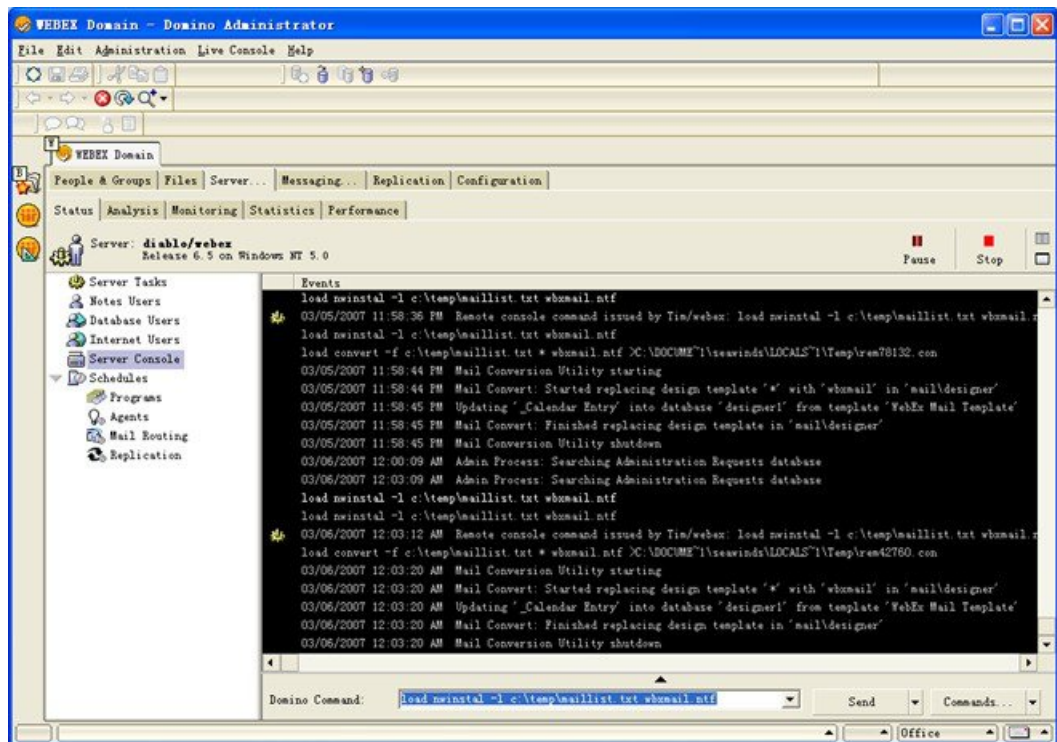


ユーザーデータベースの一覧を含む **maillist.txt** テキストファイルを作成したら、**-l** コマンドを使ってリスト中のすべてのユーザーに対して WebEx と Lotus Notes の連携スクリプトをインストールしたりアンインストールしたりします。

例えば、リスト中のすべてのユーザーに対し、WebEx メールテンプレートファイル **wbxmail.ntf** をインストールするには:

```
load nwinstal -l c:\temp\maillist.txt wbxmail.ntf
```

次に示すものがこのコマンドによる出力です:

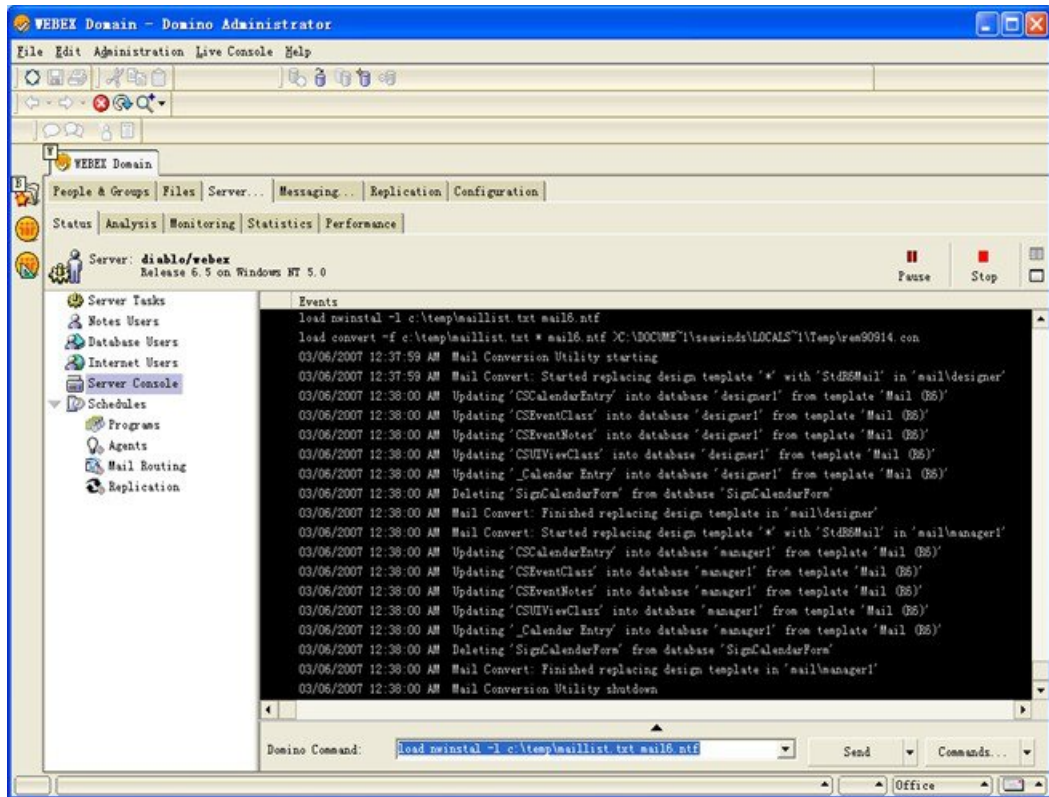


WebEx テンプレートで問題が発生する場合、オリジナルの **mail9.ntf** テンプレートを復元することができます。次のコマンドを入力し、オリジナルテンプレートを復元します:

```
load nwinstal -l c:\temp\maillist.txt mail9.ntf
```

次に示すものがこのコマンドによる出力です:

## WebEx と Lotus Notes の連携テンプレートを複数ユーザーに割り当てる





付録

# A

## Lotus Notes 連携ツールとテンプレート

- [WebEx と Lotus Notes の連携管理ツール \(nwinstal コマンド使用\)](#), 41 ページ
- [WebEx と Lotus Notes の連携のメールテンプレートファイルを削除する](#), 43 ページ

## WebEx と Lotus Notes の連携管理ツール (nwinstal コマンド使用)

WebEx と Lotus Notes の連携管理ツールが次の目的のために作成されました:

- 個々のユーザーのメールデータベースの WebEx と Lotus Notes の連携スクリプトをインストールまたは削除する。
- 特定のテンプレートをもとに新しい WebEx メールテンプレートを作成する。

管理ツールの実行後、Software Distribution ツールを使用して、またはユーザーが MSI を実行することで、ユーザーの Lotus Notes クライアントに Lotus Notes 連携クライアントのインストールを展開します。



(注) このツールを実行するには、Lotus Notes Domino 管理者の権限が必要です。さらに、インストールされる Lotus Notes ソフトウェアのバージョンが 6.5.3 以降である必要があります。

以下では **nwsinstal** 管理ツールで利用できるオプションについて記載しています。ヘルプを表示してこれらのオプションの情報を見るには、`nwinstal -?` をコマンドプロンプトに入力します。

### Syntax

- コマンドは Lotus 管理者のコンピュータで実行できます:

```
nwinstal -?  
nwinstal -c [path]filename  
nwinstal -i [path] filename  
nwinstal -u [path] filename
```

- Windows オペレーティングシステムで起動する Domino Server で実行可能なコマンド:

```
nwinstal -r [path]destination-filename source-filename
nwinstal -l [path]user-list-filename source-filename
```

## 場所

[path] Domino Server 上の **notes.ini** ファイルでディレクトリパラメータに指定されているディレクトリへの相対パスです。メールテンプレートファイルのパスがディレクトリパラメータで指定されているパスと異なる場合、この [path] の値を含める必要があります。

例えば、**notes.ini** ファイルでのディレクトリパラメータが **Directory=D** である場合は次のようになります:**\Lotus\Domino\Data** ユーザーのメールファイルが **joe.nsf** で、**D:\Lotus\Domino\Data\mail** ディレクトリに配置されている場合は次のようになります:

```
nwinstal -i mail\joe.nsf
```

次のコマンドを入力します:

会社のメールテンプレート名が **mail9.ntf** となっており、さらに **D:\Lotus\Domino\Data** のディレクトリに配置されている場合、次のコマンドを入力します:

```
nwinstal -c mail9.ntf
```

-? ヘルプが表示されます。

-c あなたが選択しているメールテンプレートにもとづいた WebEx と Lotus Notes の連携のメールテンプレートが作成されます。

例えば、**mail6.ntf** ファイルにもとづく WebEx メールテンプレートを作成している場合、次のコマンドを入力します:

```
nwinstal -c [path]mail9.ntf
```



(注) 新しいテンプレートファイルの名前は **wbxmail.ntf** となります。新しく作成されるこのファイルは、Domino サーバー (先述の例では **D:\Lotus\Domino\Data**) の **notes.ini** ファイルのディレクトリパラメータで指定されている同じ場所に保存されます。

Lotus Notes Domino コマンドを使用してメールデータベースおよび WebEx と Lotus Notes の連携のテンプレート (詳細は Lotus Notes ヘルプを参照) を更新します。例えば、次のコマンドにより、WebEx メールテンプレートからユーザーのメールデータベースに WebEx と Lotus Notes 連携のスクリプトが挿入されます:

```
load convert [path]user.nsf * wbxmail.ntf
```

-r WebEx と Lotus Notes の連携スクリプトが WebEx メールテンプレートからユーザーのメールデータベースに挿入されます。例えば、次のコマンドは Lotus Notes 連携スクリプトをユーザーのメールデータベースである **joe.nsf** に **wbxmail.ntf** WebEx メールテンプレートファイルから挿入します。次のコマンドを入力します:

```
nwinstal -r [path]joe.nsf wbxmail.ntf
```

-l WebEx と Lotus Notes の連携スクリプトが WebEx メールテンプレートから **maillist.txt** メールユーザーリストファイルのメールデータベースに挿入されます。

例えば、**c:\temp\maillist.txt** ファイルのユーザーに **wbxmail.ntf** WebEx メールテンプレートファイルから Lotus Notes 連携スクリプトを挿入するには、次のコマンドを入力します:

```
nwinstal -l c:\temp\maillist.txt wbxmail.ntf
```



(注) ユーザーリストを生成するには、Domino Server Console で次のコマンドを入力します:

```
load convert -l c:\temp\maillist.txt
```

必要に応じて **maillist.txt** ファイルを編集しあなたが追加したいユーザーのみを加えます。

-i WebEx メールテンプレートファイルを作成しないで、WebEx と Lotus Notes の連携スクリプトをユーザーのメールデータベースに挿入します。



(注) このコマンドは Notes Editor アクセスレベルのユーザーに対してのみ使用します。

例えば、WebEx と Lotus Notes の連携スクリプトをユーザー Joe のメールデータベースファイル **joe.nsf** に挿入するには、次のコマンドを入力します:

```
nwinstal -i [path]joe.nsf
```

-u ユーザーのメールデータベースファイルから WebEx と Lotus Notes の連携スクリプトを削除します。



(注) このコマンドは Notes Editor アクセスレベルのユーザーに対してのみ使用します。

例えば、WebEx と Lotus Notes の連携スクリプトをユーザー Joe のメールデータベースファイル **joe.nsf** に挿入するには、次のコマンドを入力します:

```
nwinstal -u [path]joe.nsf
```

## WebEx と Lotus Notes の連携のメールテンプレートファイルを削除する

社内で Lotus Notes 連携が使用されなくなり、WebEx と Lotus Notes の連携テンプレートを削除する必要がある場合は Domino Server から見つけて削除してください。

WebEx と Lotus Notes の連携のメールテンプレートファイルを削除する





付録

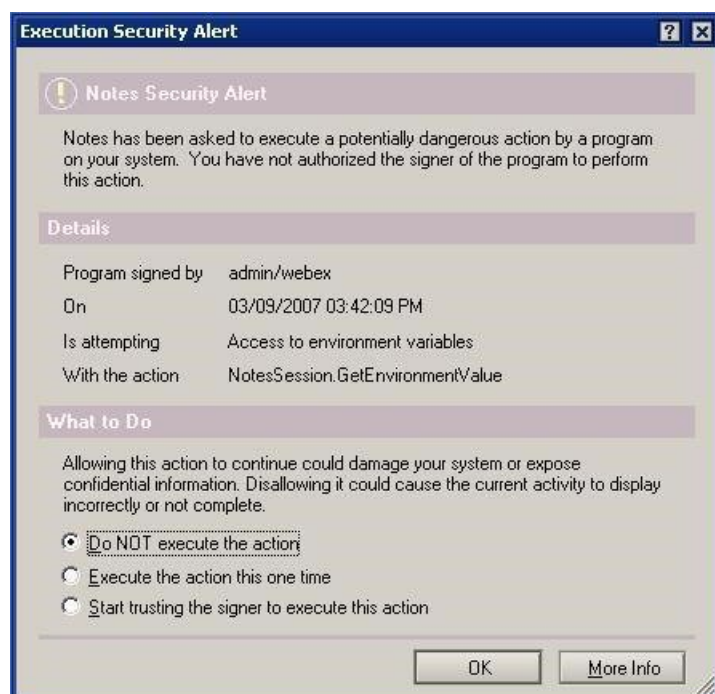
# B

## 既知の問題

- [既知の問題, 45 ページ](#)

## 既知の問題

WebEx と Lotus Notes の連携のインストール後、カレンダーを開こうとするとユーザーには次のセキュリティ警告ダイアログが表示されます:





(注) 先の図では署名者は admin/webex として表示されていますが、あなたの会社では署名者の名前は異なります。署名者名は <name of administrator>/<company name> の形式で表示されます。

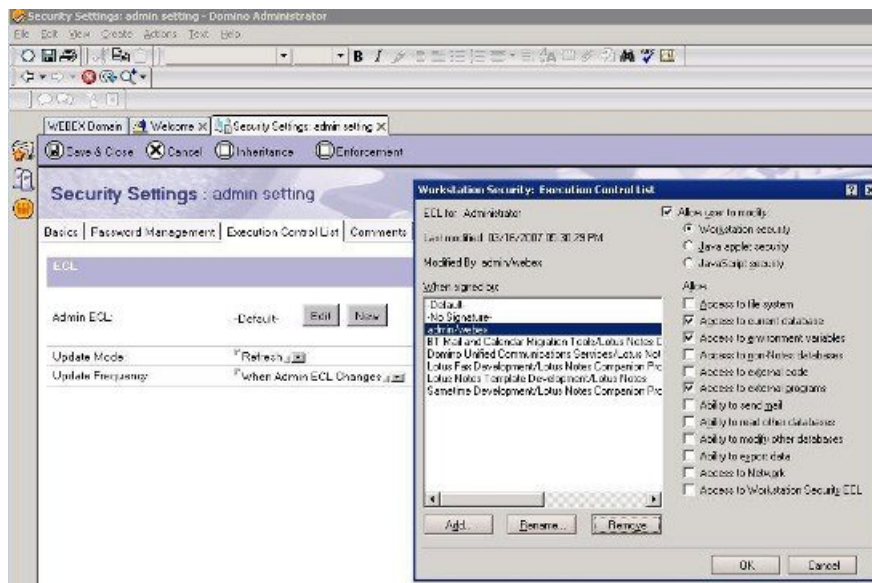
WebEx と Lotus Notes の連携により、Domino 管理者により署名されたスクリプトまたはプログラムが挿入されるため、セキュリティ警告が表示されます。

この警告を表示させないようにするには、ユーザーが [Start trusting the signer to execute this action] オプションを選択できる許可を与え、署名者を許可します。

管理者は、[Execution Control List] でセキュリティ設定を変更することでセキュリティ警告を表示させないようにすることも可能です。管理者は、[Allow] (Security Settings > Execution Control List) ダイアログボックスにある) で次のオプションを選択します。

- Access the current database
- Access the environment variables
- Access to external programs

次の図は管理者が [Execution Control List] で指定する設定を表示します:





付録

C

## レジストリとインストールされたファイル

- [レジストリとインストールファイル, 47 ページ](#)

### レジストリとインストールファイル

大規模インストールはレジストリ内の WebEx サイト情報 (URL) および WebEx 生産性向上ツールのサインイン情報を既定では削除しません。これにより、エンドユーザーは大規模インストール完了後に、ユーザー名、パスワード、WebEx サイト URL を入力する必要がありません。管理者が生産性向上ツールのすべての関連情報を削除したい場合、すべてのユーザーがログアウトした後で、管理者は次のコマンドラインを実行して削除を行います。

```
msiexec.exe /q /x "ptools.msi" REMOVEPTREG=1
```

レジストリキーは次の場所に保存されています: HKEY\_CURRENT\_USER\Software\WebEx\ProdTools.

- 32 Bit Windows オペレーティングシステム

1 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\Software\WebEx\ProdTools

2 HKEY\_CURRENT\_USER\Software\WebEx\ProdTools

- 64 Bit Windows オペレーティングシステム

1 HKEY\_LOCAL\_MACHINE\Software\Wow6432Node\WebEx\ProdTools

2 HKEY\_CURRENT\_USER\Software\WebEx\ProdTools

次の表にはインストールされるファイルが記されています。インストールされているバージョンによって一覧の内容が異なる場合があります。例えば、64bit Windows オペレーティングシステムの保存先フォルダは **Program Files (x86)** になります。

| フォルダ                                   | ファイル一覧   | 説明  |
|--|--|---|
| Program Files\WebEx\Productivity Tools | ptmain9.dll,<br>ptmain10.dll,<br>ptmain11.dll,<br>ptmain12.dll,<br>ptmain14.dll,<br>ptolkadd.dll                                 | Files for WebEx integration to Outlook.                         |
| Program Files\WebEx\Productivity Tools | ptwbxoni.exe,<br>ptoniui.dll,<br>ptoi3res.dll,<br>ptwbxurl.dll   | WebEx と Outlook の連携および WebEx と Lotus Notes の連携のユーザインタフェースのファイル。 |
| Program Files\WebEx\Productivity Tools | ndbwbxpt.dll,<br>ptnwinto.dll,<br>ptnwintc.dll,<br>ptniadpt.dll,<br>ptwnictl.dll,<br>ptnwcfg.exe,<br>ptnires.dll,<br>lcppn30.dll | WebEx と Lotus Notes のファイル。                                      |

| フォルダ                                   | ファイル一覧  | 説明   |
|--|---|--|
| Program Files\WebEx\Productivity Tools | ptoneclk.exe,<br>ptocRes.dll,<br>ptusredt.dll,<br>ptExtend.dll,<br>ptocnote.dll,<br>ptExMeet.dll,<br>install.rdf,<br>lcppn30.dll,<br>ptInst.exe,<br>ptSrv.exe,<br>ptUpdate.exe,<br>ptgpcdec.dll,<br>ptgpcext.dll,<br>ptiegpc.dll,<br>ptinstck.dll,<br>ptMgr.dll,<br>ptSknMgr.dll,<br>ptRes.dll,<br>libeay32.dll | WebEx 生産性向上ツールパネル (旧称 WebEx ワンクリックパネル) のファイル。<br><br>ptSrv.exe は WebEx 生産性向上ツールのすべてのコンポーネントによって共有されます。 |
| Program Files\WebEx\Productivity Tools | ptwbxrm.dll,<br>ptonres.dll   | Microsoft Windows right-click menu   |
| Program Files\WebEx\Productivity Tools | ptwbxms.dll,<br>ptwbxst.dll,<br>ptonres.dll   | Microsoft Office Smart Tag 用の WebEx ツールバー  |

| フォルダ                                   | ファイル一覧   | 説明                                 |
|--|--|------------------------------------|
| Program Files\WebEx\Productivity Tools | ptonecli.dll,<br>ptonres.dll   | Internet Explorer の WebEx ボタン      |
|  | PTIM.exe,<br>PTIMHook.dll,<br>PTIMRes.dll,<br>com.wbx.realtime.meeting_1.0.1.jar,<br>feature.xml,<br>ptwbxjni.dll,<br>ptonres.dll,<br>chrome.manifest,<br>Install.rdf,<br>Chrome\ocplugin.jar,<br>Components\OCFF.dll,<br>Components\IOcFf.xpt,<br>WebExStatus.xml | インスタントメッセージャーの WebEx 連携            |
| Program Files\WebEx\Productivity Tools | ripa.dll,<br>ripatrc.dll,<br>ripaur1.dll   | WebEx と Cisco Unified IP Phone の連携 |
| Program Files\WebEx\Productivity Tools | msvcr90.dll,<br>msvc90.dll,<br>msvc60.dll,<br>Microsoft.VC90.CRT.manifest,<br>Microsoft.VC90.ATL.manifest,<br>atl90.dll  | Dependency runtime library         |
| Program Files\WebEx\Productivity Tools | wbxtrace.dll   | Trace function                     |
| Program Files\WebEx\Productivity Tools | ptSSO.dll  | シングルサインオン                          |

| フォルダ                         | ファイル一覧  | 説明                      |
|------------------------------|---|-------------------------|
| Lotus Notes のインストールディレクトリ    | ndbwbxpt.dll,<br>ptnwinto.dll,<br>ptnwintc.dll,<br>ptniadpt.dll,<br>ptwnictl.dll,<br>ptnwcfg.exe,<br>ptnires.dll,<br>lcppn30.dll,<br>ptoniui.dll,<br>ptWbxONI.exe,<br>ptWBXURL.dll,<br>ptOI3Res.dll | WebEx と Lotus Notes の連携 |
| Lotus Sametime のインストールディレクトリ | com.wbx.realtime.meeting_1.0.1.jar,<br>feature.xml,<br>ptwbxjni.dll,  | WebEx と Lotus Notes の連携 |

